

生涯学習センター きらめき 短期講座

生涯学習センター きらめきでは、毎月短期講座を開催しています。回数が4~5回の短い講座で、すでに多くの市民が受講しています。

今回は、今までに行われた講座の中から、5月に行われたパソコン分解・組立講座を紹介します。



パソコン分解・組立講座

5月に行われたパソコン分解・組立講座の回数は5回でした。

1回目では、まずコンピュータの基礎知識（ハードウェア、ソフトウェア）を学びました。

2回目は分解実習、3回目は組立実習、4回目は設定実習でした。分解実習では、前回学んだ基礎知識を踏まえ、ハードウェアの構成要素の確認、分解手順の理解、パーツの管理を行いました。組立実習では、手順を理解した上で、パーツの確認をしながら作業を進めました。設定実習では、OSのインストールと設定、フォーマット、環境設定などを行い、パソコンを完成させていきました。

パソコンの分解・組立をすることで、ただパソコンを使うだけでなく内部構造を把握することができ、自分の好みのパーツに交換したり、パワーアップを行ったりできます。

受講生の皆さんは、ドライバー、ラジオペンチなどを片手に、パーツを確認しながら作業を進めていました。

この講座は今後も開講する予定で、短期講座は広報『いばらき』で募集します。

この講座は今後も開講する予定で、短期講座は広報『いばらき』で募集します。



受講生の皆さんの声です

1回目の講座が終わった後、受講生の皆さんに講座の感想などを聞きました。

○パソコンは、ほかの講習会で習ったことがあるのでだいたい理解していますが、組立をしたことがないのでとても楽しみです。

○先生は、むずかしい話でもユーモアを交えて、具体的にわかりやすく説明をしてくださいます。

○パソコン内部の構造と働きがよくわかります。

○パソコンはよく使っているのですが、本体内部のことが知りたくて受講しました。機械の中は複雑ですね。でも楽しいです。

○今後の生涯学習に向けて受講しました。ついていけるかこれからが大変です。

今までに開講された短期講座

- インターネット・ワード講座
- マナーアップ講座
- 男の茶道
- 珈琲を楽しむ
- 金融講座
- ワインからはじめるお酒の楽しみ方
- ヘルマンハーブを弾こう
- 愛唱歌講座
- 初級デジタルビデオ講座
- 住まいと生活を考える
- 自然の世界
- ケーキいろいろ
- 中国の庶民生活
- 茶道の心に学ぶ
- ジャズ講座
- 子どもとの生活を楽しむために
- 薬膳料理
- パーソナルカラー講座 など

わがまち茨木の 民話・伝説

各地に民話・伝説があるように、茨木にもいくつかの話が残されています。

茨木市では、昔から語り伝えられている話や古典・古記録に残されていた茨木に関する話を集めて、「わがまち茨木 民話・伝説編」に掲載しています。

今回は、その中の2編を紹介します。

白井河原の蛍合戦(福井村)

佐保川と勝尾寺川は幣久良山の西麓で合流し、茨木川となり南に流れる。この辺りの河原を白井河原と呼んだ。この河原は毎年初夏になると水辺を求めて蛍が集い、蛍の名所になっていた。村人達は日暮頃になると酒肴を持ち寄り蓆を敷いて河原に陣どり蛍合戦を見物するのであった。宵闇が濃くなる頃、遠くからゴーツというかすかな羽音が聞こえてきて次第に音が近づく。それは飛んでくる蛍の大集団である。東の集団と西の集団はちょうど白井河原の上空でぶつかる。激しいもみ合いが起こり相当数の蛍が流星のように流れに落ちる。暫くして蛍の集団はいずれかに飛び去り、見物の人達も三々五々家路について、あとはせせらぎの音がきこえている。「撰津名所図会」に蛍合戦の記事が書き残されている。

(『わがまち茨木 民話・伝説編』より)

安威川が竹藪で覆われていた昭和10年頃までは、茨木にも蛍が飛び交っていた。今では想像できないが、何千何万という蛍が空中を飛び交い、蛍合戦をしているように見えたらしい。「撰津名所図会」は、江戸時代の佐保川と勝尾寺川が合流する辺りの河原の蛍狩を伝えている。

元龜2年(1571年)8月の白井河原の合戦では、多くの兵(つわもの)が亡くなり、その亡霊が蛍火となり空中に舞っているのだともいわれていた。

(『わがまち茨木 風習編その2』より)



『わがまち茨木』『茨木の史跡』は、市役所南館の地域教育振興課・市民相談室、文化財資料館で購入できます。

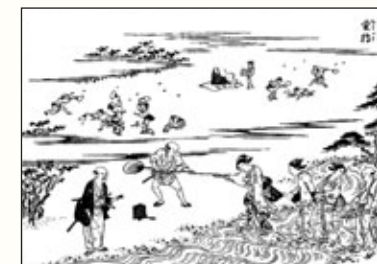
ぼろ塚の話(道祖本村)

宿河原というところで、ぼろぼろ(虚無僧)が沢山集まって、九品の念仏を申ししていた時、外よりはいつてきたぼろぼろが、「私はしら梵字という者ですが、私の師匠が東国で、いろおしと申すぼろに殺されたと聞いたので、その人に逢って恨みをはらしたいと思って申ししているのです」と言う。いろおしは「殊勝にもおいでになられたものだ。そういうことがありました。ここで切り合いをすれば道場をけがします。前の河原でお相手いたしましょう。同行のみなさん方、どちらへも加勢をしないでください。多人数の迷惑となつては、仏事の妨げになりましょう。」と言って、二人は河原へ出て、心ゆくまで戦って共に死んでしまった。

(『わがまち茨木 民話・伝説編』より)

南清水町にぼろ塚がある。約1mの花崗岩でぼろ塚と刻字されている。ぼろ塚の話は『徒然草』115段に記されていて、宿河原については、武蔵国の宿河原と解する説もあるが、吉田兼好は京都に住んでいたこともあり、京都にも近く西国街道に沿った当地とするのが自然であろう。

(『茨木の史跡』より)



撰津名所図会

ぼろ塚

